

人口減少・超高齢社会を迎え、 どのようなまちづくりが必要でしょうか

わが国は、これから人口が減少し、超高齢社会を迎えようとしています。今「まち」は薄く広がり、病院や市役所が郊外に立地し、車がなければ生活しにくい拡散型の都市構造となっています。

このままで、大丈夫でしょうか？ 超高齢社会を迎えるなかで、高齢者も含めた多くの人たちが暮らしやすいまちにするためには、拡散に歯止めをかけ、人々がアクセスしやすい生活拠点をつくる必要があります。

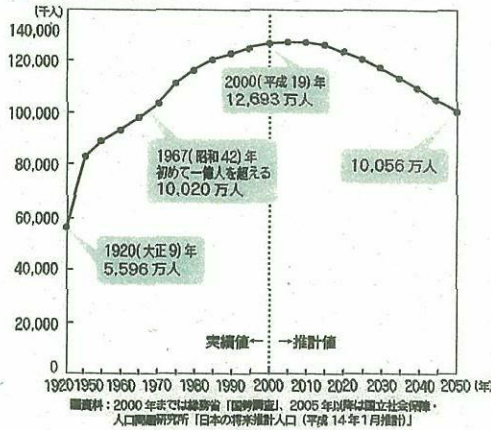
これから、 社会は・・・

人口減少・超高齢社会の到来

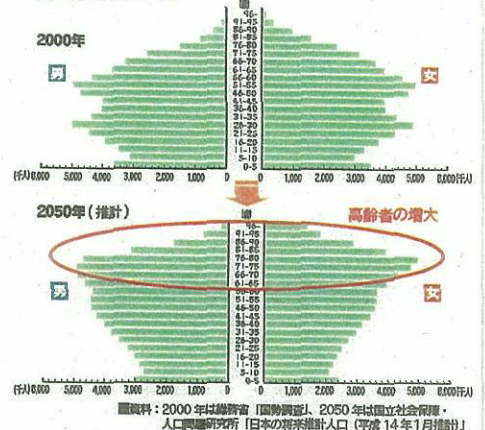
わが国の総人口は2006年をピークに減少に転じました。また、65歳以上のお年寄り人口の割合(高齢化率)が増加し、まもなく超高齢社会を迎えようとしています。2050年には3人に1人がお年寄りになると推計されています。

※超高齢社会：一般に高齢化率が21%以上の社会

人口減少社会の到来



超高齢社会の到来



郊外化する「まち」 (拡散型都市構造)

都市機能の無秩序な拡散

住宅や商業施設だけでなく、病院や市役所、学校なども郊外に拡散しています。

中心市街地の空洞化

中心市街地から人が少なくなり、まちの活力や楽しみ、にぎわいが失われています。



農地の中に建つ建物



シャッターの下りた商店街

このままでは 「まち」が・・・

生活利便性の低下

車を利用できないお年寄りなどが、公共施設や店舗などを利用しにくくなり、生活が不便になります。

公共サービスの低下、都市経営コストの増大

新たなインフラの整備が必要になり、維持管理のコストも増えます。

生活空間としての魅力の喪失

人との交流やにぎわい、文化などの機能がなくなり、まちとしての魅力を失ってしまいます。

環境負荷の増大

車の利用が増え、多くのエネルギーが必要になるとともに、開発により自然が失われます。

「まち」に生活拠点を (集約型都市構造)

郊外化の歯止め

都市機能の拡散に歯止めをかける必要があります。

生活拠点の再生

都市機能が集積した、アクセスしやすい「生活拠点」を作る必要があります。



あなたのまちの「生活拠点」はどこですか？

これは地域が考えなければいけない問題です。